
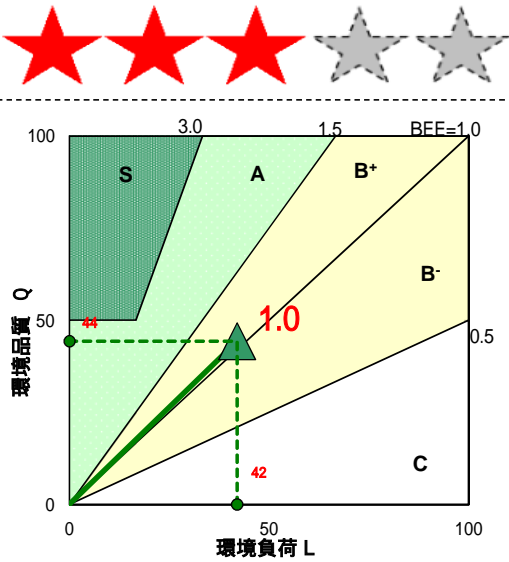


# CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

建物概要				外観
建物名称	熊本物流センター新築工事	階数	地上2F	
建設地	熊本県上益城郡御船町大字辺田見	構造	S造	
用途地域	市街化区域	平均居住人員	40人	
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年	
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年7月28日	
敷地面積	6,264 m <sup>2</sup>	作成者		
建築面積	2,022 m <sup>2</sup>	確認日	2014年7月31日	
延床面積	2,299 m <sup>2</sup>	確認者		

## 1 CASBEE評価結果


**建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)**



環境品質 Q

環境負荷 L

ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能 (ランク表示)



**BEE = 1.0**

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q(\text{環境品質})}{L(\text{環境負荷})}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—


■ ライフサイクルCO<sub>2</sub> 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

**87%**

## 2 熊本県重点評価結果

重点事項総合評価	評価点												
	<b>74</b>												
<p>【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進</p> <p>【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現</p> <p>【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全</p> <p>【重点事項4】 循環型社会の実現</p>	<p>評価点</p> <p>82.5</p> <p>65.0</p> <p>67.5</p> <p>72.0</p> <p>熊本県重点評価基準</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>判定値 (評価点)</th> <th>ランク表示</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100点以上</td> <td>★★★★★</td> </tr> <tr> <td>80点以上100点未満</td> <td>★★★★</td> </tr> <tr> <td>60点以上80点未満</td> <td>★★★</td> </tr> <tr> <td>40点以上60点未満</td> <td>★★</td> </tr> <tr> <td>40点未満</td> <td>★</td> </tr> </tbody> </table> <p>評価点は、100点以上が推奨です。</p>	判定値 (評価点)	ランク表示	100点以上	★★★★★	80点以上100点未満	★★★★	60点以上80点未満	★★★	40点以上60点未満	★★	40点未満	★
判定値 (評価点)	ランク表示												
100点以上	★★★★★												
80点以上100点未満	★★★★												
60点以上80点未満	★★★												
40点以上60点未満	★★												
40点未満	★												

# CASBEE® 熊本 《新築》【評価結果】

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。  
 使用評価マニュアル：CASBEE 新築（評価版）2010年改訂版Ver.2（BPIBEE版） 使用評価ソフト：CASBEE-NCb\_2010bpi&bei(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	熊本物流センター新築工事	階数	地上2F
建設地	熊本県上益城郡御船町大字辺田見	構造	S造
用途地域	市街化区域	平均居住人員	40人
気候区分		年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年3月 予定	評価の実施日	2014年7月28日
敷地面積	6,264 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	2,022 m <sup>2</sup>	確認日	2014年7月31日
延床面積	2,299 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算  
 参照値: 100%  
 建築物の取組み: 87%  
 上記+ 以外の: 87%  
 上記+: 87%

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

Q2 サービス性能: 5  
 Q1 室内環境: 3  
 Q3 室外環境 (敷地内): 2  
 LR1 エネルギー: 3.5  
 LR2 資源・マテリアル: 3.1  
 LR3 敷地外環境: 3.1

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 2.7**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.2

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

### 3 熊本県重点評価結果

**重点事項総合評価**

重点事項1: 温室効果ガス排出量削減の推進 **評価点 = 83**

重点事項2: 安全安心で暮らしやすい社会の実現 **評価点 = 65**

重点事項3: 県の地域資源の有効活用と保全 **評価点 = 68**

重点事項4: 循環型社会の実現 **評価点 = 72**

**重点事項の評価 (レーダーチャート)**

排出量削減の推進: 83  
 安全安心で暮らしやすい社会の実現: 65  
 県の地域資源の有効活用と保全: 68  
 循環型社会の実現: 72

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 'ライフサイクルCO<sub>2</sub>'とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-新築(簡易版)2010年追補  
熊本物流センター新築工事

欄に数値またはコメントを記入

使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版Ver.2 (BPI/BEI対応)

評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010bpi&bei\

スコアシート 実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点への配 み 数	評価点	重み 係数		
<b>Q 建築物の環境品質</b>					<b>2.7</b>	
<b>Q1 室内環境</b>					<b>2.8</b>	
<b>1 音環境</b>		<b>2.1</b>	0.15	-	2.1	
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
<b>1.2 遮音</b>		<b>1.8</b>	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		1.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
<b>1.3 吸音</b>		<b>1.0</b>	0.20	3.0	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35	-	2.6	
<b>2.1 室温制御</b>		<b>3.0</b>	0.50	-	-	
1 室温		3.0	0.38	3.0	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>1.0</b>	0.20	3.0	-	
<b>2.3 空調方式</b>		<b>3.0</b>	0.30	3.0	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.0</b>	0.25	-	3.0	
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>4.2</b>	0.30	-	-	
1 昼光率	昼光率:3.20%	5.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>2.0</b>	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		2.0	1.00	3.0	-	
3 映り込み対策		-	-	-	-	
<b>3.3 照度</b>		<b>3.0</b>	0.15	3.0	-	
<b>3.4 照明制御</b>		<b>3.0</b>	0.25	3.0	-	
<b>4 空気環境</b>		<b>3.5</b>	0.25	-	3.5	
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>4.0</b>	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	すべて規制対象外またはF のものを使用する	4.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
<b>4.2 換気</b>		<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能	自然換気有効開口面積が居室床面積の1/10以上	5.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
<b>4.3 運用管理</b>		<b>2.0</b>	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		1.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>		-	0.30	-	3.3	
<b>1 機能性</b>		<b>3.4</b>	0.40	-	3.4	
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>3.3</b>	0.40	-	-	
1 広さ・収納性	事務所71.83㎡/従業員6人=1人当たりの執務スペース11.97㎡	4.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>3.6</b>	0.30	-	-	
1 広さ感・景観		3.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	喫煙室有り、事務所面積の約50%の休憩室有り、自販機の設置	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		3.0	0.33	-	-	
<b>1.3 維持管理</b>		<b>3.5</b>	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計	防汚性の高い仕上材の採用	4.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務		-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.1</b>	0.31	-	3.1	
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.4</b>	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	ガルバリウム鋼板40年	5.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新						
2.4 信頼性			3.0	0.19		
1	空調・換気設備		3.0	0.20		
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		
3	電気設備		3.0	0.20		
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20		
5	通信・情報設備		3.0	0.20		
3 対応性・更新性			3.2	0.29		3.2
3.1 空間のゆとり			4.0	0.31		
1	階高のゆとり	基準階階高 = 3.7m	4.0	0.60	3.0	
2	空間の形状・自由さ	1階壁長さ比率: 0.11	4.0	0.40	3.0	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	
3.3 設備の更新性			2.8	0.38		
1	空調配管の更新性		2.0	0.17		
2	給排水管の更新性		3.0	0.17		
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.22		
Q3 室外環境(敷地内)				0.37		2.2
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30		1.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40		3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50		
3.2	敷地内温熱環境の向上		2.0	0.50		
LR 建築物の環境負荷低減性						3.3
LR1 エネルギー				0.40		3.5
1 建物の熱負荷抑制		建物の熱負荷抑制に配慮	5.0	0.09		5.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.26		3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50		
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50		
3 設備システムの高効率化		LED照明など、高効率設備機器の採用	4.0	0.39		4.0
		集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)	4.0			
		集合住宅の評価	3.0			
4 効率的運用			3.0	0.26		3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50		
4.2	運用管理体制		3.0	0.50		
LR2 資源・マテリアル				0.30		3.1
1 水資源保護			3.0	0.15		3.0
1.1 節水			3.0	0.40		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60		
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.33		
2 非再生性資源の使用量削減			2.9	0.63		2.9
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07		
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20		
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05		
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げが容易に分別可能、OAフロアの採用	5.0	0.24		
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22		3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32		
3.2 フロン・ハロンの回避			4.0	0.68		
1	消火剤		-	-		
2	発泡剤(断熱材等)	発泡剤を用いた断熱材を使用していない	5.0	0.50		
3	冷媒		3.0	0.50		
LR3 敷地外環境				0.30		3.1
1 地球温暖化への配慮		LCCO2=87%	3.5	0.33		3.5
2 地域環境への配慮			2.9	0.33		2.9
2.1 大気汚染防止			3.0	0.25		
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		
2.3 地域インフラへの負荷抑制			2.6	0.25		
1	雨水排水負荷低減		-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33		
3	交通負荷抑制	普通車27台、中型車9台、大型車4台、来客用駐車場、自転車置場設置	4.0	0.33		
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.33		
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33		3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40		
1	騒音		3.0	1.00		
2	振動		-	-		
3	悪臭		-	-		
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制			3.0	0.40		
1	風害の抑制		3.0	0.70		
2	砂塵の抑制		3.0	-		
3	日照障害の抑制		3.0	0.30		
3.3 光害の抑制			3.7	0.20		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	チェックリストの一部を満たす	4.0	0.70		
2	曇光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30		

# CASBEE® 熊本 《新築》 【配慮事項】

## 4 設計上の配慮事項

### 総合

- ・空気質環境への配慮に加え、執務スペースやリフレッシュスペースの確保など、従業員が快適に作業が行える空間を提供している。
- ・建物の省エネルギー性能の向上や建物のリサイクル促進対策にも配慮している。

### Q1 室内環境

- ・高い昼光率を確保している。
- ・F を使用し、室内の空気質環境に配慮している。
- ・自然換気性能の確保に努めている。

### Q2 サービス性能

- ・快適な執務スペースを確保している。
- ・十分なリフレッシュスペースを設置している。
- ・防汚性の高い仕上材を採用、建物の維持管理に配慮している。
- ・階高、壁長さを確保し、空間のゆとりに配慮している。

### Q3 室外環境（敷地内）

- ・緑地を確保している。

### LR1 エネルギー

- ・建物の熱負荷抑制に配慮している。
- ・LED照明など、高効率設備機器を採用し、建物の省エネルギー性能の向上に努めている。

### LR2 資源・マテリアル

- ・躯体と仕上げが容易に分別可能な事や、OAフロアの採用など、建物のリサイクル促進対策を行っている。

### LR3 敷地外環境

- ・駐車場、駐輪場の確保など交通負荷抑制に配慮している。

### その他

## 熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 熊本物流センター新築工事

評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010\_kmt2011(v3.0)

使用評価マニュアル: CASBEE熊本(新築)2011年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		73.9
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
<b>温室効果ガス排出量削減の推進</b>				82.5	0.40	33.00
Q1-2.1.3	外皮性能	3.0	0.09			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.09			
Q1-3.2.2	昼光制御	2.0	0.09			
LR1 1	建物の熱負荷抑制	5.0	0.04			
LR1 2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1 3	設備システムの高効率化	4.0	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3 2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
<b>安全安心で暮らしやすい社会の実現</b>				65	0.20	13.00
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.15			
<b>県の地域資源の有効活用と保全</b>				67.5	0.20	13.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.20			
LR2-1.1	節水	3.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	2.0	0.30			
<b>循環型社会の実現</b>				72	0.20	14.40
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.4	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

## 評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

## 総合評価結果

$$\text{総合評価点} = (\text{各重点事項の評価点} \times \text{各重点事項の重み係数}) \text{の総和}$$

重み係数の総和は、「1」であること。

## 各重点事項( ~ の項目)

$$\text{評価点} = (\text{各重点項目のスコア} \times \text{各重点項目の重み係数}) \text{の総和} \times (5/4) \times 20$$

重み係数の総和は、「1」であること。

(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数